

若者の結婚意識に関する一考察Ⅱ  
——女子短大生の結婚意識分析を中心として——

A Study on Young People's Consciousness toward  
Marriage

—— Analysis of Marriage Consciousness of Female Junior College Students ——

山本 優貴

YAMAMOTO Yuki

# 若者の結婚意識に関する一考察Ⅱ

## ——女子短大生の結婚意識分析を中心として——

### A Study on Young People's Consciousness toward Marriage

—— Analysis of Marriage Consciousness of Female Junior College Students ——

山本 優貴

YAMAMOTO Yuki

**要旨：**本研究は、女子大学生の結婚観と、それに対し影響を与えていると考えられる要因を検討したものである。2021年に行われた前回調査に引き続き、結婚前の女子短期大学生（19～20歳）20名を対象に、任意・無記名でアンケート調査を行った。前回のアンケート内容に、今回新たな設問を1問追加した形式のものであり、前回調査と比較分析をした。

本調査結果では、「具体的な結婚希望年齢がある、又は、いつかは結婚したい」と回答した割合が95%を超え、「25歳までに結婚したい」と「30歳までに結婚したい」と回答した人の合計が89%（前回調査：94%）を超えた。これにより、短期大学1年の時点では、2022年時の平均初婚年齢（男性：31.0歳、女性：29.4歳）までには結婚したいと考えている学生が大多数であることが明らかとなった。結婚式の写真や動画を見せることが学生たちの結婚意識にどのような影響を及ぼすかを調査するために、それを最後の質問項目として追加した。現在のパートナーの有無や結婚観について、また、その結婚観が形成されたであろう時期や考え得る要因、そして親の婚姻状況なども影響しているかどうかも併せて調査した。女子短期大学生の「結婚」に対する意識を分析した上で、結婚式場などのブライダル業界や婚活業界が果たしていくべき、今後の役割を検討することを目的とする。

**キーワード：**結婚、婚姻数、結婚観、初婚年齢、未婚化、晩婚化、価値観の多様化

## 1. はじめに

近年、「未婚化」や「晩婚化」が進んでいると言われて久しい。恋愛や結婚そのものにおいても、そしてその後の結婚式においても価値観が多様化している。皆婚社会であり、夫の姓を名乗ることが当然と考えられていた時代から、現在は様変わりし、個人が結婚のタイミングを決め、そもそも結婚をするかしないか、法律婚にするか事実婚にするか、結婚後にどちらの姓を名乗るかなど、幅広い選択肢から自分に合うものを選び、意思決定をすることが当たり前の世の中になった。

日本における未婚化の加速は、ブライダル業界及び周辺業界にも多大な影響を与えている。未婚化の要因は様々であるが、2017年には60万7000組であった婚姻件数は年々減少を続け、2019年は令和婚の影響で一時的に増加したものの、2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2022年は51万9823組となった。この5年の間に、婚姻件数が8万7177組のマイナスとなり、大幅な減少傾向を示した。1970年代前半と比較すると、現在は約半分程度の水準となっている。

現在、「未婚」と一括りに呼称されている中には、実は2つの分類があり、自らの意思で結婚をしないことを決めた「選択的非婚」と、結婚がしたくてもそれが叶わない「不本意未婚」があるとされている。前者と後者では、事実上「未婚」とはいえ、意味合いが大きく異なってくるものであるが、年々未婚率は上昇傾向にある。

19歳から20歳の学生たちは、人生のライフプランを考える中で「結婚」について、どのように捉えているのだろうか。思い描いている結婚のイメージは、何らかのきっかけやタイミングで変わるのだろうか。その結婚観が形成された背景にはどのようなことが考えられるのか、学生たちへのアンケートを基に紐解いていく。

本アンケートは、埼玉女子短期大学において秋学期開講の「ブライダルマーケティング」の受講生に対し、任意・無記名で実施したものである。尚、ここで示す結婚とは、法的な婚姻を指すこととする。

## 2. 方法

### 2.1 対象者

関東在住の日本人女子学生 20名 (19～20歳)

## 2.2 調査時期

2022年12月

## 2.2 調査内容

(1)～(2)および(13)は共通設問、(3)～(7)は結婚を希望している学生、(8)～(12)は結婚を希望していない学生に対する設問とした。設問(13)については、今回から追加したものであるため、比較対象データはない。本アンケートは、無記名で行い、回答は任意とした。各設問には、3つから4つの選択肢を用意し、そのうち1つを選ばせる方法をとった。該当する回答がない場合には、「その他」という選択肢を選ぶことも可能とし、回答自体がなされなかった場合には「未回答」とした。以下に「結婚に関するアンケート」の設問内容を示す。

(1) お付き合いをしているパートナーはいますか？

- ①現在いる
- ②過去にいたことがある
- ③一度もいたことはない
- ④その他

(2) 今のパートナーに関わらず、将来的に結婚したいと思いますか？

- ①いつかは結婚したい
- ②今すぐにでも結婚したい
- ③具体的な希望年齢がある
- ④結婚はしたくない

(3) 【結婚を希望している方】に伺います。それは何歳頃までのイメージですか？

- ①25歳まで
- ②30歳まで
- ③35歳まで
- ④特に希望はなし

(4) 【結婚を希望している方】に伺います。将来的には結婚がしたいと考えるようになったのはいつ頃からですか？

- ①幼少期～小学生時代
- ②中学生時代
- ③高校時代
- ④それ以降

(5) 【結婚を希望している方】に伺います。ご自宅には親御様の結婚式の写真がありますか？

- ①写真があり部屋に飾られている
- ②飾られてはいないが見たことがある
- ③不明・写真を見たことはない
- ④その他

(6) 【結婚を希望している方】に伺います。「結婚」が持つ言葉のイメージについて、ご自身の考えに最も近いものを選んでください。

- ①幸せ
- ②苦労
- ③努力
- ④その他

(7) 【結婚を希望している方】に伺います。親御様の婚姻状況について教えてください。

- ①婚姻関係継続中
- ②離婚している
- ③離婚後再婚している
- ④その他

- (8) 【結婚を希望していない方】に伺います。結婚をしたくない理由は何ですか？ ご自身の考えに最も近いものを選んでください。
- ①ひとりが楽だから
  - ②あまり良いものだと思わないから
  - ③良い人とめぐりあえるかわからないから
  - ④その他
- (9) 【結婚を希望していない方】に伺います。結婚をしたくないと考えるようになったのはいつ頃からですか？
- ①幼少期～小学生時代
  - ②中学生時代
  - ③高校時代
  - ④それ以降
- (10) 【結婚を希望していない方】に伺います。ご自宅には親御様の結婚式の写真がありますか？
- ①写真があり部屋に飾られている
  - ②飾られてはいないが見たことはある
  - ③不明・写真を見たことはない
  - ④その他
- (11) 【結婚を希望していない方】に伺います。「結婚」が持つ言葉のイメージについて、ご自身の考えに最も近いものを選んでください。
- ①幸せ
  - ②苦勞
  - ③努力
  - ④その他

(12) 【結婚を希望していない方】に伺います。親御様の婚姻状況について教えてください。

- ①婚姻関係継続中
- ②離婚している
- ③離婚後再婚している
- ④その他

(13) 結婚式の写真や映像を見た後に、「結婚式をやってみたい」という気持ちになりますか？

- ①なる
- ②ならない
- ③未回答

### 3. 結果及び考察

以下の表は、設問(1)～(13)までの結果をまとめたものである。尚、カッコ内の数字は前回2021年11月の調査時のものであり、今回との比較対象としている。表中の数字は、割合を表す百分率である。小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%になっていない場合がある。設問(1)～(2)および(13)は全員共通のため、全体の20サンプル内での割合を提示することとし、(3)～(7)については該当した19サンプル、(8)～(12)については該当した1サンプルが母数となっている。

表1 女子短大生の結婚意識調査結果

回答 設問	①	②	③	④
(1) パートナー の有無	25.0 (25.0)	55.0 (52.7)	20.0 (19.4)	0.0 ( 2.0)
(2) 結婚願望	70.0 (63.8)	0.0 ( 2.0)	25.0 (27.0)	5.0 ( 5.0)
(3) 希望年齢	36.8 (32.3)	52.6 (61.7)	5.2 ( 5.8)	5.2 ( 0.0)
(4) 考え始めた 時期	36.8 (23.5)	21.0 (20.5)	26.3 (44.1)	15.7 (11.7)
(5) 結婚写真の 有無	10.5 (11.7)	78.9 (64.7)	10.5 (17.6)	0.0 ( 5.8)
(6) 「結婚」の イメージ	73.6 (79.4)	0.0 ( 8.8)	5.2 ( 2.9)	21.0 ( 8.8)
(7) 親の 婚姻状況	94.7 (82.3)	5.2 (14.7)	0.0 ( 2.9)	0.0 ( 0.0)
(8) 結婚を希望し ない理由	0.0 (50.0)	0.0 ( 0.0)	0.0 ( 0.0)	100.0 (50.0)
(9) 考え始めた 時期	0.0 ( 0.0)	0.0 (50.0)	100.0 (50.0)	0.0 ( 0.0)
(10) 結婚写真の 有無	0.0 ( 0.0)	100.0 ( 0.0)	0.0 (50.0)	0.0 (50.0)
(11) 「結婚」の イメージ	100.0 ( 0.0)	0.0 (50.0)	0.0 ( 0.0)	0.0 (50.0)
(12) 親の 婚姻状況	100.0 (100.0)	0.0 ( 0.0)	0.0 ( 0.0)	0.0 ( 0.0)
(13) 動画視聴後 の変化	85.0 (－)	0.0 (－)	15.0 (－)	

今回の調査から、次のような傾向が認められた。

- 1) 【共通設問】 4人に1人はパートナーがおり、前回調査と同割合であった。過去にパート



ナーがいた人も含めると80%（前回：77.7%）であり、20%（前回：19.4%）は「一度もいたことがない」と回答した。前回調査時と大きく変わりはないが、どちらも若干の微増傾向を示した。

- 2) 【共通設問】 どのタイミングであっても将来的に結婚を希望する人は、全体の95%（前回：94%）であり、結婚を希望しない人は5%と前回同様であった。具体的な希望年齢はなく、漠然と「いつかは結婚したい」という回答が70%（前回：63.8%）と大多数であったが、全体の25%（前回：27%）、4人に1人は既に具体的な希望年齢をイメージしていた。
- 3) 結婚したい人19人のうち、89.4%（前回：94%）が30歳までの結婚をイメージしており、約95%にあたる18人が35歳までに結婚したいと回答した。前回調査時には「特に希望はなし」と回答した人はいなかったが、今回は5.2%にあたる1名がそのように回答した。傾向として、25歳までの結婚を理想とする割合が前回調査時よりも4.5ポイント増加し、30歳までの結婚を理想とする割合が9.1ポイント減少した。このことから、可能であれば、短期大学卒業後の5年間の間に結婚を望むというような、結婚希望の早期化傾向が見られた。
- 4) 結婚したい人19人のうち、約84%（前回：88.1%）の人が「幼少期」から「高校時代」までの間に将来の結婚をイメージしていた。中でも「中学時代」と「高校時代」に将来的な結婚の方向性を考えていた人が47.3%（前回：64.6%）と全体の約半分を占めていたが、前回調査時よりも17.3ポイント減少した。特に、高校時代になってから将来的な結婚の方向性を考え始めた人が、今回調査では26.3%（前回：44.1%）と17.8ポイントも大きく減少したことが要因である。反対に、「幼少期～小学生時代」にいつかは結婚がしたいと考えるようになった人の割合が36.8%（前回：23.5%）と、前回調査時よりも13.3ポイント増加した。その要因として考えられることは、幼少期の結婚に関連するイベント参加や、親戚の結婚式への参列経験、および結婚式でのリングガールなどの役割体験により、結婚や結婚式に対し良い印象を持ったことなどが挙げられるのではないだろうか。大学生になってからの「それ以降」という回答は、15.7%（前回：11.7%）と前回調査時よりも4ポイント増加した。
- 5) 結婚したい人19人のうち、結婚式の「写真があり、部屋に飾られている」家庭は、10.5%（前回：11.7%）であり、前回より多少減少しているものの、大差はなかった。「飾られてはいないが、見たことがある」と回答した人は、78.9%（前回：64.7%）と大多数を占めており、今までに何かのきっかけで親の結婚写真を目にする機会があった人は合計して、89.4%（前回：76.4%）と前回調査時よりも13ポイント増加した。このことから、結婚写真をフォトフレームのようなものに入れ、生活空間に飾ってある家庭は少ないことが示された。反対に、アルバム

のようなもので普段は滅多に目に触れることはないものの、結婚記念日や学校の調べ学習などで親が何かの機会に取り出し、子どもに見せることがあったのではないだろうか。親が結婚衣装を身に纏った写真は、一度見た時の印象が強く、幼少期や小学生時代の記憶に残っているものと考えられる。結婚写真が子どもに対し、何らかのイメージの刷り込みや影響を与える役割になっているのではないかと推察する。

- 6) 結婚したい人19人のうち、大多数の73.6% (前回:79.4%) が「幸せ」という言葉を連想した。「苦勞」と回答した人は今回はいなかった (前回:8.8%) が、「努力」と回答した人が5.2% (前回:2.9%)、「その他」と回答した人が21% (前回:8.8%) であった。「その他」に関して自由回答欄を設けたところ、そのうち2名が「責任と覚悟」「感謝」とそれぞれ回答した。結婚に対し、明らかなマイナスイメージを持っている人はいなかったが、「その他」において自由回答のなかったものについては、今後の調査が必要である。
- 7) 結婚したい人19人のうち、94.7% (前回:82.3%) の親が婚姻関係を継続している。5.2% (前回:14.7%) の親が離婚、離婚後再婚した親はなかった。約5%の親が離婚を経験しているが、その子供は結婚したいと考えていることが明らかになった。
- 8) ここからは、結婚の希望がない人への設問となっている。設問2で「結婚はしたくない」を選択した人は、全体の約5%であった。選択肢にある「1人が楽だから」「あまり良いものと思わないから」「良い人と巡り合えるかわからないから」は選択されず、「その他」という回答であった。「その他」に関しては、リサーチが必要だが、結婚に対しマイナスなイメージがある訳ではないことが設問11から読み取れる。
- 9) 「結婚はしたくない」と回答した人は、高校時代までに将来は結婚をしないという方向性を考えていた。これは、設問4と同様で、結婚するしないのどちらにせよ、95%の人が高校時代までに方向性を決定していたことがわかる。
- 10) 「結婚はしたくない」と回答した人のうち、親の結婚式の写真を「飾られてはいないが、見たことがある」という回答をした人が100%であった。
- 11) 「結婚はしたくない」と回答した人のうち、前回は50%が「苦勞」、50%が「その他」という言葉を連想していたが、今回は100%が「幸せ」というプラスのイメージを持っていた。
- 12) 「結婚はしたくない」と回答した人のうち、100%の親が婚姻関係は継続中であった。設問11と12の回答から、親の結婚と本人の希望に相関関係は見られなかった。
- 13) 【共通設問】 結婚式関連の写真を見たり、動画視聴をすることと、結婚式をしてみたいという意欲との関連性があるかどうかを調査するため、今回から新たに追加した設問である。親に

限らず、友人知人や親戚、及びInstagramやYouTubeなどでの結婚写真や結婚式動画を見た後の気持ちの変化を調査した。未回答が15%であったが、85%にあたる人が「結婚式をしてみたい」と回答した。このことから、結婚式関連の写真や動画などは、結婚意欲を高めることに効果的であるといえる。

#### 4. 今後の課題

今回のサンプル対象者も、元々ブライダル業界に興味関心のある学生たちであったが、志望の異なる学生を交えた調査で、回答にどのような変化があるかも記録していきたい。今後は、幼少期の結婚式への参加経験の有無や、周囲の結婚及び結婚式の実施状況などの、その人が持っていると思われる背景が、本人の結婚観にどのような影響をもたらすのかを、より細かく調査する必要がある。また、3年5年と継続して調査をし、比較対象を増やしていくことが今後の課題である。

#### 5. まとめ

本調査は、結婚意識について19歳～20歳の未婚の女子短期大学生20名を対象に行ったものであった。結果として、全体の95%にあたる学生が、現時点において結婚を自らの人生プランに組み込んでおり、高校時代までにその意向を持っていた学生は前回と今回調査の平均値で約86%と非常に高いことが明らかになった。反対に、結婚はしたくないという意識を持つようになるのも、同時期であることが2回の調査ともに判明した。

近年、結婚式とは「お披露目の場」というイメージよりも、「今までの歩んできた人生を振り返る場」であり、「感謝を伝える場」として認識されている。人生プランニングを検討するためのきっかけを提供する機会として、幼少期の「結婚式参列体験」や小中学校時代の「親やお世話になった人へ感謝を伝えられるようなイベントの実施」などが挙げられる。結婚式場は、従来通りの婚礼をプロデュースすることだけではなく、まずはその手前段階にある、「人生プランニング」を考える機会の創出をすることが今後の役割ではないだろうか。また、婚活業界においては、マッチングアプリや結婚相談所に登録をしても、思うように結婚が叶わない「不本意未婚者」が多数いる現状にある。そこにおける事業者側のサポートの在り方や、結婚したい本人自

身の相手選びの意識や親との関係性を改めて見直していくサポートも、今後はより一層必要になってくると考えられる。

これにより「結婚する、しない」に関わらず、自分の進路を検討する中で、進学先や仕事のキャリアだけでなく、先々のライフイベントまでも含めた広い視野での人生プランニングが必要となってくるのであろう。

## 参考文献

結婚を考える会『「婚活」受難時代』角川新書，2020.

現代思想『9月号〈恋愛〉の現在』青土社，2021.

東洋経済ONLINE『「不本意未婚」結婚したいのにできない若者の真実』  
<https://toyokeizai.net/articles/-/580378>，2023年6月閲覧.

内閣府『男女共同参画局』  
<https://www.gender.go.jp/research/fufusei/index.html>，2023年6月閲覧.

内閣府『男女共同参画白書 令和4年版』  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r04/zentai/pdf/r04\\_tokusyu.pdf](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/pdf/r04_tokusyu.pdf)，  
2023年6月閲覧.

厚生労働省HP『(婚姻) 第5表 都道府県別にみた夫・妻の平均初婚年齢の年次推移』  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii09/marr5.html>，2023年6月閲覧.

リクルートブライダル総研『恋愛・結婚調査2021 (リクルートブライダル総研調べ)』  
[https://souken.zexy.net/research\\_news/love.html](https://souken.zexy.net/research_news/love.html)，2023年6月閲覧.

リクルートブライダル総研『総研リサーチニュース』  
[https://souken.zexy.net/research\\_news/2018/04/180418.html](https://souken.zexy.net/research_news/2018/04/180418.html)，2023年6月閲覧.

リクルートブライダル総研『リクルートブライダル総研作成 婚姻組数予測』  
[https://souken.zexy.net/research\\_news/konin.html](https://souken.zexy.net/research_news/konin.html)，2023年6月閲覧.

株式会社リクルート『婚活実態調査2022』  
[https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/0908\\_11596.html](https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/2022/0908_11596.html)，2023年6月閲覧.

IBJマッチングアプリ研究所『マッチングアプリはいつから流行った？婚活業の歴史【昭和～令和時代】』  
<https://www.ibjapan.jp/match-lab/>，2023年6月閲覧.